

○經常部

内閣

一、内閣恩給局調査課新設等ニ要スル經費

恩給行政事務ノ要諦ハ受給者ニ對シ迅速ニ給與スルト共ニ恩給支給ノ精神ヲ明確ニ徹底セシムルニアリ、現在恩給受給者ハ恩給局長裁定ニ係ルモノノミニテモ其ノ人員ハ三十九萬三千餘人ニ達シ其ノ金額ハ一億六千萬圓ニ垂ントスルノ情勢ニ在リ斯クノ如キ情勢下ニ於テハ自然受給者中恩給權ヲ不正ニ行使シ脱法的ニ擔保ニ供シ悪用スル者頻出スル虞アルニ付其ノ受給狀況及恩給制度ノ改善調査ヲ充分ニ爲スコトハ眞ニ刻下ノ急務ナリトス、又受給權調査ニ關スル事務ハ昭和九年開始以來意想外ノ手數ヲ要シ殊ニ受給者ノ身分關係ニ付テハ慎重ニ調査ヲ爲スノ要アルト、事實婚ニ因ル失權調査モ意外ニ多數ニシテ之ガ調査ノ爲著シク手數及日子ヲ要シ其ノ失權取捨ノ判斷ニ付テハ深ク考察ヲ要スルモノアリ、之等ノ繁多ナル事務ヲ現在ノ庶務課及審



参照

●内閣所屬部局及職員官制

大正十三年十二月二十日  
勅令第三百七號

- 第三條 恩給局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 恩給ヲ受クルノ權利ノ裁定ニ關スル事項
  - 二 恩給ニ關スル具申ノ裁決ニ關スル事項
  - 三 恩給ノ支給及負擔ニ關スル事項

第七條 内閣ニ左ノ所屬職員ヲ置ク

(前略)

恩給局書記官

專任一人

奏任

(中略)

屬

專任百五十五人

判任

(後略)

參照

昭和十三年度大藏省所管豫算

歲出經常部

第二款 內閣

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

第一節 書記官

四二九〇〇四

專任內閣書記官三人同賞勳局書記官二人同恩給局書記官一人及  
增加見込人員一人計二人同統計局書記官二人同情報部書記官  
五人計十四人俸給入平均年俸參千百貳拾四但內一六九五分

計六  
計七  
計八  
計九  
計十  
計十一  
計十二  
計十三  
計十四  
計十五  
計十六  
計十七  
計十八  
計十九  
計二十  
計二十一  
計二十二  
計二十三  
計二十四  
計二十五  
計二十六  
計二十七  
計二十八  
計二十九  
計三十  
計三十一  
計三十二  
計三十三  
計三十四  
計三十五  
計三十六  
計三十七  
計三十八  
計三十九  
計四十  
計四十一  
計四十二  
計四十三  
計四十四  
計四十五  
計四十六  
計四十七  
計四十八  
計四十九  
計五十  
計五十一  
計五十二  
計五十三  
計五十四  
計五十五  
計五十六  
計五十七  
計五十八  
計五十九  
計六十  
計六十一  
計六十二  
計六十三  
計六十四  
計六十五  
計六十六  
計六十七  
計六十八  
計六十九  
計七十  
計七十一  
計七十二  
計七十三  
計七十四  
計七十五  
計七十六  
計七十七  
計七十八  
計七十九  
計八十  
計八十一  
計八十二  
計八十三  
計八十四  
計八十五  
計八十六  
計八十七  
計八十八  
計八十九  
計九十  
計九十一  
計九十二  
計九十三  
計九十四  
計九十五  
計九十六  
計九十七  
計九十八  
計九十九  
計一百

第三目 俸給

四二九〇〇四



參照

昭和十三年度大藏省所管豫算

歲出臨時部

第二款 調查費

第五項 昭和十年間易國勢調查費

第一目 奏任俸給

第一節 書記官

三一二〇円

專任定員一人、俸給

第二節 統計官

七九二〇円

專任定員三人、俸給一人平均年俸貳千六百四拾円



第二目 判任俸給

第一節 屬

七八八〇円

專任定員八人、俸給一人平均年額九百八拾五円

第二節 統計官補

一〇、八三五円

專任定員拾壹人、俸給一人平均年額九百八拾五円

内閣所屬部局及職員官制

(赤書ヲ加ヘ改正致度)

第三條 恩給局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 恩給ヲ受クルノ權利ノ裁定及調査ニ關スル事項
- 二 恩給ニ關スル具申ノ裁決ニ關スル事項
- 三 恩給ノ支給及負擔ニ關スル事項
- 四 恩給金庫ニ關スル事項



昭和十三年年度增加人員調

局 課	本 課 算		連 加 課 算		計	備 考
	書記官	局 員	局長	書記官 事務官		
經常部						
内閣		九ヶ月 一				
恩給局		五ヶ月 四				五ヶ月分屬四人ハ 恩給金庫ノ分
法制局		九ヶ月 三				
賞勳局		二				
敍勳者 名簿		一				
恩給 金庫		五ヶ月 一				敍勳者名簿ハ臨 時部ヨリ移シタ ルモノナリ
臨時部						
内閣 總務課 (滿洲事件)		減少 一				
					〇	



對支經濟事務局

計

二

四

一

一

三

三

一

二

二

三八

六

四

四

六五

一六

閣甲一二四

昭和十三年五月五日

内閣書記官長

内閣書記官



十三  
五  
七  
二  
七

濟

# 内閣總理大臣及

## 法制局長官



外務大臣

三

陸軍大臣

五

文部大臣

九

遞信大臣

七

厚生大臣

九

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

興

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙内閣總理大臣及大藏陸軍海軍商工四大臣

請議總動員補償委員會規程制定ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十九

去  
司  
局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕總動員補償委員會規程ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年七月一日

内閣總理大臣  
各省大臣

呈案附箋ノ通

法制局附第七 二号

八月廿八日



梅田

閣議請議

總動員補償委員會規程制定ノ件

國家總動員法ノ施行ニ依リ軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ廢止セララルルニ因リ軍需工業動員法第十五條ノ規定ニ基ク軍需評議會規程ニ代ハルベキ總動員補償委員會ニ關スル規程ヲ制定スルノ必要アリ仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

尙工場又ハ事業場ノ管理ニ因ル損害ノ補償ニ關シ主務大臣ハ總動員補償委員會ノ決議ヲ經ルニ先チ大藏大臣ニ通報連絡スルコトト致度

右閣議ヲ請フ

閣甲二二四

内

月

昭和十三年四月二十八日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文

大藏大臣 賀屋 興

陸軍大臣 杉 山



日本標準規格B4列

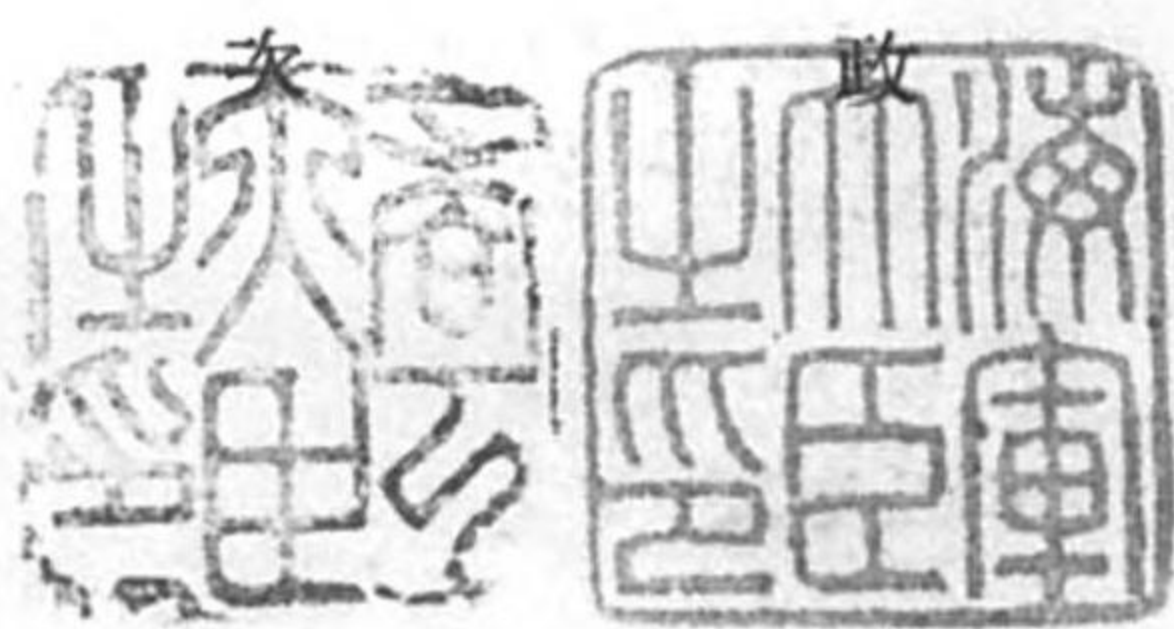
內閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿 殿

海軍大臣

米內 光

商工大臣

吉野 信



內  
閣



勅令第四百七十四號

總動員補償委員會規程

第一條 總動員補償委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ國家總動員  
法第二十九條第一項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ  
調査審議ス

第二條 總動員補償委員會ハ會長一人及委員二人以内ヲ以テ之ヲ組織  
ス

第三條 會長ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經

驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理  
ス

第六條 總動員補償委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ  
内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ補償金ノ算定  
ニ關スル事項ノ調査ニ從事ス

第七條 總動員補償委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 總動員補償委員會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ又ハ  
當事者其他適當メ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

總動員補償委員會ハ事務遂行ノ爲ニ必要ト認ムルトキハ  
委員以外ノ者ノ出席ヲ求メ其ノ供託ヲ強クコトヲ得  
委員ハ一定ノ人員ニ限リ得ルモノトシ且テ委員中  
委員ノ請求ニ依リ得テハ委員中ノ一人ヲ選ビ  
鑑定人トシ得ルモノトシ且テ鑑定人ノ選定ハ委員  
中ノ一人ノ請求ニ依リ得ルモノトシ且テ鑑定人  
ノ選定ハ委員中ノ一人ノ請求ニ依リ得ルモノトシ

民事訴訟法第十一條乃至第十三條ノ規定ハ前二項ノ費用ノ額

第九條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外總動員補償委員會ニ關シ必  
要ナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日、月、ヨリ之ヲ施行ス

軍需評議會規程ハ之ヲ廢止ス

事務局長の公

理由

「軍需評議會ヲ設置スルノ要アルト」軍需工業動員法及昭和十二年法律第八

十八號ノ廢止ニ依リ、軍需評議會規程ヲ廢止スルノ必要アルニ由ル

、軍需評議會規程ヲ廢止スルノ必要アルニ由ル

必要アルニ由ル

内閣

参照

國家總動員法（昭和十三年法律第五十五號）抄

（國務各大臣副署）

法制局



第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命令シ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益

照  
(一)

金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ム

ル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用  
スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ  
於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依  
リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クル  
コトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ム  
ル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止  
シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命  
ズルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依  
リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ  
管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル  
技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試驗研究機關ノ管理者ニ對シ試驗研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス



第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル

拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

参照

軍需工業動員法（大正七年法律第三十八號）抄（國務各大臣副署）

第二條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲必要アルトキハ左ノ各號ニ掲クル工場及事業場並其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得

一 軍需品ノ生産又ハ修理ヲ爲ス工場及事業場

二 前號ニ掲クル工場及事業場ニ要スル原料若ハ燃料ヲ生産シ又ハ電力若ハ動力ヲ發生スル工場及事業場

三 前各號ニ掲クル工場ニ轉用スルコトヲ得ル工場

第三條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産、修理又ハ貯藏ノ爲必要アルトキハ土地並家屋倉庫其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ必要アルトキハ第一條第二號ニ掲クル物件ノ全部又ハ一部ヲ管理スルコトヲ得

照

(二)

法制局

第四條 前二條ノ場合ニ於テ政府ハ從業者ヲ供用セシムルコトヲ得

第五條 前三條ノ規定ニ依ル處分ニ因リ生シタル損害ハ政府之ヲ補償ス

第十條 第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ收用シタル工場、事業場、土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ五年内ニ拂下タルトキハ舊所有者又ハ其ノ承繼人ニ於テ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十四條 政府ハ軍事上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條各號ニ掲クル工場若ハ事業場ヲ有スル者又ハ前條ニ掲クル者ニシテ一定ノ資格アルモノニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ者ニ對シ軍需品ノ生産、修理若ハ貯藏ヲ爲サシメ又ハ軍事上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依リ利益保證又ハ獎勵金下付ヲ受クル事業ヲ監

督シ又ハ之カ爲必要ナル命令若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 第五條ノ規定ニ依ル補償金及前條ノ利益保證又ハ獎勵金ノ算定並第十條ノ規定ニ依ル拂下價額ハ軍需評議會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

軍需評議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

参照

昭和十二年法律第八十八號（軍需工業動員法）  
適用ニ關スル法律）  
（國務大臣副署）

軍需工業動員法中戰時ニ關スル規定ハ支那事變ニ亦之ヲ適用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

照  
(三)

法制局

内

閣

参照

軍需評議會規程（昭和十一年十二月二十四日）（勅令第六百六十五號）（國務大臣副署）

軍需評議會規程

第一條 軍需評議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ軍需工業動員法第十五條第一項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

第二條 軍需評議會ハ會長一人及委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條 軍需評議會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ

照  
(四)

於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ補償金ノ算定ニ關スル事項ノ調査ニ從事ス

第七條 軍需評議會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 軍需評議會ハ必要アリト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第九條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外軍需評議會ニ關シ必要ナル事項ハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

昭和十三年度大藏省所管追加豫算

歳出經常部

第二款 内閣

第十二項 總動員補償委員會費

第三目 雜給及雜費

第一節 給與

名稱	人員	一人ノ估額	金額
會長手當	一		一六〇 <small>円</small>
委員同	三〇	一 <small>円</small>	三〇 <small>円</small>
幹事同	一五	一二 <small>円</small>	一八〇 <small>円</small>

日本銀行發行所(十二号七) 昭和十三年





書記同

五

七五

三七五

内 閣

五	書記同
五	
七五	
三七五	

日本標準規格B4例(十一行全)(富井納)

日本標準規格B4例(十一行全)(富井納)

昭甲一七九

昭和十三年六月三十日

内閣書記官長

内閣書記官

稻田

佐藤

佐藤

昭和十三年七月一日  
昭甲一七九  
六月六日  
公布

内閣總理大臣 齋藤

法制局長官 佐藤

外務大臣

齋藤

陸軍大臣

海軍

文部大臣

齋藤

遞信大臣

齋藤

厚生大臣

齋藤

内務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

拓務大臣

齋藤

法制局官制中改正ノ件

起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

二七九

法制局

別紙ノ通

治  
律  
局

朕法制局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年七月五日

内閣總理大臣

勅令第四百八十號

法制局官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中「屬 專任六人」ヲ「屬 專任九人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

法制局所掌ノ事務増加ニ伴ヒ屬三人ヲ増員スルノ要アルニ由ル

參照

○ 法制局官制

明治二十六年十月  
勅令第百十八號

(總理大臣副署)

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

一人

勅任

參事官

專任九人

奏任内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

書記官

一人

奏任參事官ヲシテ之ヲ兼ネシム

理事官

專任一人

奏任

屬

專任六人

列任

法制局ニ左ノ二部ヲ置ク其ノ事務分掌ハ長官之ヲ定ム

第一部

第二部

部長ハ參事官ヲ以テ之ニ充ツ



參照

昭和十三年度大藏省所管豫算

歲出經常部

第二款 內閣

第一項 俸給

第三目 判任俸給

第一節 屬

一〇七、六九三圓

專任定員百七十人、內百四人及增加見込人員九人計百十三人、俸給一人平均年額九百八拾五圓、但內三人、九箇月分五人、五箇月分







閣議一四九號

案起

昭和十三年六月二日

裁可昭和 年 月 日  
施行 昭和十三年六月二日

昭和 年 月 日

內閣總理大臣



內閣書記官長



內閣書記官

昭和十三年七月十二日

內閣書記官長

法制局長官宛

依命通牒

陸上交通事業調整法ノ規定ニ依リ交通

日

事業調整委員會設置ノ必要有之候ニ付  
別紙官制案ノ趣旨ニ依リ勅令案起  
案上申相成度又官制

内閣書記官

一月一日

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

交通事業調整委員會官制（案）

第一條 交通事業調整委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ鐵道大臣及内務大臣ノ諮問ニ應ジテ陸上交通事業調整法第二條第一項、第三條第三項、第五條及第十二條ニ規定スル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ陸上交通事業ノ調整ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人副會長二人及委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ鐵道大臣及內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中

ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 貴族院議員及衆議院議員

三 學識經驗アル者

前項第二號及第三號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

臨時委員ハ特別事項ニ關スル調査審議終了シタルトキハ退任ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ神會長事故アルトキハ會長ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル陸上  
交通事業調整法ヲ裁可シ茲ニ之  
ヲ公布セシム

### 御名 御璽

昭和十三年四月一日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿  
大藏大臣 賀屋 興宣  
鐵道大臣 中島知久平  
內務大臣 末次 信正

### 法律第七十一號

#### 陸上交通事業調整法

第一條 本法ニ於テ陸上交通事業トハ地方  
鐵道事業、軌道事業、自動車運輸事業其ノ  
他勅令ヲ以テ指定スル事業ヲ謂フ

第二條 主務大臣公益ノ増進ヲ圖リ陸上交  
通事業ノ健全ナル發達ニ資スル爲メ陸上交  
通事業ノ調整ヲ爲サントストキハ交通  
事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ調整ノ區  
域、調整スベキ事業ノ種類及範圍、之ヲ密  
接ナル關係ヲ有スル兼業ノ處置並ニ左ノ  
各號ニ依ル調整ノ方法ヲ決定スベシ

- 一 會社ノ合併又ハ設立
- 二 事業ノ讓受又ハ讓渡
- 三 事業ノ共同經營
- 四 事業ノ管理ノ委託又ハ受託
- 五 連絡上必要ナル線路其ノ他ノ設備ノ  
新設、變更又ハ共用

六 運費又ハ料金ノ制定、變更又ハ協定  
七 連絡運輸、直通運輸其ノ他運輸上ノ  
協定

八 用品其ノ他ノ共同購入、共同修繕其  
ノ他調整上必要ト認ムル方法

主務大臣ハ前項ノ決定ニ依リ陸上交通事  
業經營者ニ對シ前項第一號ノ事項ノ實施  
ヲ勸告シ又ハ同項第二號乃至第八號ノ事  
項ノ實施ヲ命ズベシ

第三條 陸上交通事業經營者前條第二項ノ  
勸告ニ依リ主務大臣ノ指定スル期間内ニ  
協定ヲ爲シタルトキハ之ガ認可ヲ申請ス  
ベシ

陸上交通事業經營者前條第二項ノ命令ヲ  
受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間  
内ニ協定ヲ爲シ之ガ認可ヲ申請スベシ協  
定成立セザルトキハ主務大臣ハ命令ノ定  
ムル所ニ依リ協議調ハザル事項ヲ裁定  
ス

主務大臣前項ノ裁定ヲ爲サントストキ  
ハ交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵スベシ  
但シ重要ナラザルモノニ付テハ此ノ限ニ  
在ラズ

主務大臣第二項ノ裁定ヲ爲シタルトキハ  
關係陸上交通事業經營者ニ之ヲ通知スベ  
シ

第四條 交通事業調整委員會ニ關スル規程  
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第二條第一項ノ規定ニ依リ決定シ  
タル調整ノ區域内ニ於ケル陸上交通事業  
經營ノ免許又ハ特許ニシテ重要ナルモノ

ハ主務大臣交通事業調整委員會ノ意見ヲ  
徵シ之ヲ爲スベシ

第六條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ  
因リ調整ノ區域内ニ於ケル主要ナル陸上  
交通事業ヲ包括シ經營スルニ至リタル會  
社ニシテ勅令ニ依リ指定スルモノノ定款  
ノ變更、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ  
主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ  
效力ヲ生ゼズ

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ  
準ズベキモノ第二條ノ規定ニ依ル調整ノ  
實施ニ因リ陸上交通事業ヲ經營スル會社  
ノ株主若ハ債權者ト爲リ又ハ其ノ會社ニ  
事業ノ管理ヲ委託シタル場合ニ於テハ北  
海道廳長官、府縣知事又ハ市町村長其ノ  
他之ニ準ズベキ者ハ其ノ指名スル吏員ヲ  
シテ商法ノ定ムル選任方法ニ依リ其ノ會  
社ノ取締役又ハ監査役ヲラシムルコトヲ  
得此ノ場合ニ於テハ市制第七十七條及第  
七十八條又ハ町村制第六十五條及第六十  
六條若ハ之ヲ準用スル北海道一級町村制  
第一條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ依リ會社ノ取締役又ハ監査  
役ト爲リタル者吏員タル身分ヲ失ヒタル  
トキハ取締役又ハ監査役ノ職ヲ失フ

第八條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ  
因リ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於  
テハ其ノ登録稅ノ額ハ左ノ額トス但シ登  
錄稅法ニ依リ算出シタル登録稅ガ左ノ額  
ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

- 一 會社ノ設立又ハ資本増加

金錢出資ニ依ル拂込株金額又ハ増  
資拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以

外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額  
又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ一ト  
ノ合計額

二 會社ノ設立若ハ資本増加又ハ陸上交  
通事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産ニ  
關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三  
北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベ  
キモノハ前項ニ規定スル不動産ニ關スル  
權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ  
得ズ

第九條 地方鐵道法、軌道法、自動車交通事  
業法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ免  
許、特許、許可又ハ認可ヲ受ケルコトヲ要  
スルモノニ付テハ第三條又ハ第六條ノ規  
定ニ依リ認可ヲ受ケタルトキハ命令ノ定  
ムル所ニ依リ當該法令ノ規定ニ依ル免  
許、特許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト  
看做ス

第十條 第三條第二項ノ裁定アリタル場合  
ニ於テ第二條第一項第一號ノ讓受ノ價  
額、同項第三號ノ共同經營ニ於ケル收得  
若ハ負擔ノ金額ノ割合又ハ同項第四號ノ  
管理ノ報酬金額ニ付不服アル者ハ協定ノ  
相手方ヲ被告トシ裁定ノ通知ヲ受ケタル  
日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコ  
トヲ得

前項ノ訴訟ハ第二條第二項ノ命令及第三  
條第二項ノ裁定ノ效力ヲ停止セズ

第十一條 第二條第二項ノ規定ニ依リ事業  
ヲ讓受ケタル者前條ノ規定ニ依リ出訴シ  
タル場合ニ於テハ裁定ニ基ク讓受價額ト

自己ノ見積價額トノ差額ニ相當スル金銭  
ヲ供託スルコトヲ得

第十二條 陸上交通事業經營者本法若ハ本  
法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲  
ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ交  
通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ左ノ處分  
ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 他人ヲシテ事業經營者ノ計算ニ於テ  
事業ノ管理ヲ爲サシムルコト
- 三 事業ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ爲サシ  
ムルコト
- 四 免許又ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取消  
スコト

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十三年度追加豫算(第二號)大藏省所管

第二款 内閣

第十項 交通事業調整委員會費

一五、〇〇〇 円

一五、〇〇〇

第一目 廳費

二、〇四四

第二目 内國旅費

一、五〇〇

第三目 雜給及雜費

一一、四五六

第一節 給與

八、六一〇

内譯

名稱	人員	一人ノ給額	總員ノ給額
事務囑託手當	五	二〇〇	一、〇〇〇
會長 同	一	〇〇〇	一六〇
副會長 同	二	一六〇	三二〇
委員 同	三	一、二〇〇	三、六〇〇
臨時委員 同	一	一、二〇〇	一、二〇〇





↑  
交通事業調整委員會官制 (案)

第一條 交通事業調整委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ鐵道大臣及内務大臣ノ諮問ニ應ジテ陸上交通事業調整法第二條第一項、第三條第三項、第五條及第十二條ニ規定スル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ陸上交通事業ノ調整ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人副會長二人及委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコ

トヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ鐵道大臣及内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 貴族院議員及衆議院議員

三 學識經驗アル者

前項第二號及第三號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ



臨時委員ハ特別事項ニ關スル調査審議終了シタルトキハ退任ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

交通事業の調整の委員会、国会議員の  
体面を損なう物視を慮り、否決して有難  
御座います、

委員会官制の件は内務省と相談が  
一應纏りましよう、御相談の件は  
了すから、御案を議の上、法制局に  
起

案命令の件は、取り急ぎ存じませ

尚、委員会ノ運用ニ付テハ充分御注意  
ニ相成ル様御座います、

福久 総務課長殿

一本 書架長

214

濟

閣甲一九四

昭和十三年八月十六日

内閣書記官長



内閣書記官



佐藤



昭和十三年七月三十日



内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



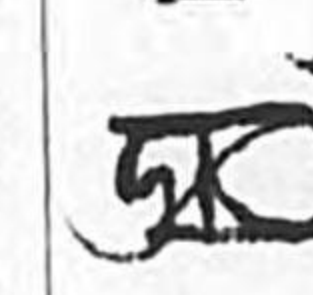
司法大臣



商工大臣



拓務大臣



交通事業調整委員會官制制定命令依り起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

二二二

法制局





朕交通事業調整委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年八月二日

內閣總理大臣

內務大臣

鐵道大臣

勅令第五百四三號

交通事業調整委員會官制

第一條 交通事業調整委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ鐵道大臣

及内務大臣ノ諮問ニ應ジテ陸上交通事業調整法第二條第一項、第

三條第三項、第五條及第十二條ニ規定スル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ陸上交通事業ノ調整ニ關スル重要事項ニ付關係各大臣ニ建  
議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人、副會長二人及委員三十五人以内ヲ以テ  
之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコト  
ヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ鐵道大臣及内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 貴族院議員及衆議院議員

三 學識經驗アル者

前項第二號及第三號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨グズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名ス

ル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

陸上交通事業調整法第二條第一項、第三條第三項、第五條及第十二條ノ規定ニ依リ交通事業調整ニ關スル事項ヲ調査審議セシムル爲交通事業調整委員會ヲ設クルノ要アルニ依ル

参照

●臨時資金調整委員會官制

昭和十二年九月十六日  
勅令第四百九十八號

朕臨時資金調整委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理大臣副署)

臨時資金調整委員會官制

第一條 臨時資金調整委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ資金使用ノ調整ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ資金使用ノ調整ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人、副會長二人及委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ大藏大臣及商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第六條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

參照

昭和十三年度大藏省所管追加豫算

歲出經常部

第二款 內閣

第十項 交通事業調整委員會費

第三目 雜給及雜費

第一節 給與

內譯左如シ

名稱	人員	一人ノ給額	總員ノ給額
事務囑託手當	五	二〇〇 <small>円</small>	一〇〇〇 <small>円</small>
會長同	一		一六〇

副會長同	二	一六〇	三二〇
委員同	三〇	一三〇	三六〇
臨時委員同	一〇	一〇〇	一〇〇
幹事同	一〇	一〇〇	一四四
書記同	一〇	七五	七五
官吏以下慰勞金			一四〇

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)



法制局閣第一三三號

昭和十三年七月十二日



内閣閣甲第一四九號

昭和十三年七月十二日

内閣書記官長 風見



法制局長官 船田 中殿

依 命 通 牒

陸上交通事業調整法ノ規定ニ依リ交通事業調整委員會設置ノ必要有  
之候ニ付テハ別紙官制案ノ趣旨ニ依リ勅令案起案上申相成度

内閣



交通事業調整委員會官制（案）

第一條 交通事業調整委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ鐵道大臣及内務大臣ノ諮問ニ應ジテ陸上交通事業調整法第二條第一項、第三條第三項、第五條及第十二條ニ規定スル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ陸上交通事業ノ調整ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人副會長二人及委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ鐵道大臣及内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中

ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 貴族院議員及衆議院議員

三 學識經驗アル者

前項第二號及第三號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

臨時委員ハ特別事項ニ關スル調査審議終了シタルトキハ退任ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内閣總理大臣

秘

案

交通事業調整委員會委員 (未定稿)

一 關係官廳高等官

鐵道省

內務省

遞信省

大藏省

陸軍省

內閣

企畫院

法制局

二 貴族院議員及衆議院議員

貴族院

衆議院

三 學識經驗了ル者

政務次官

次官 次官 次官 次官 次官 書記官長 次官長

四 四

公共團體	一
交通事業者關係	三
學者及實業家	七
交通行政ニ關スル經驗者	六
計	三五

臨時委員トシテ調整區域内ニ於ケル事情ニ通ズル者若干名

二十三



閣案第二二九號

案起 昭和十三年八月二十三日

裁可	昭和	年	月	日
決定	昭和十三年	八月	二十三日	行
施行	昭和	年	月	日

內閣總理大臣 友

內閣書記官長



內閣書記官



昭和十三年八月二十三日

內閣書記官長

法制局長官宛

依命通牒

今般內閣ニ別紙案ノ趣旨ニ依リ電

氣通信委員會ヲ設置致度ニ付  
勅令案起案上申相成度

新造昭成通所

内閣事務司

昭和四年

三月廿一日

勅令第一〇九號

電報

通所

設置

致度



電氣通信委員會官制案

第一條 電氣通信委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ應シ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ東亞ニ於ケル電氣通信ノ綜合的發達ニ關スル重要事項ヲ調査

審議ス

第二條 委員會ハ會長一人、副會長一人及委員~~廿~~<sup>三十</sup>人以内ヲ以テ之ヲ

組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ遞任大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ

命ス

幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ第一條ノ

事項ノ調査ニ從事ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

秘

電氣通信委員會官制案理由書案

現下内外ノ情勢ニ鑑ミ我國ヲ中心トシテ東亞ニ於ケル電氣通信ノ綜  
合的發達ヲ圖リ以テ我國ノ大陸ニ對スル諸政策ニ適應セシメントス



電氣通信委員會委員名簿案

逓信省 (甲)

一、委員

イ、關係廳高等官

內閣書記官長 企豐院次長 對滿事務局次長

(對支事務局次長) 外務次官 大藏次官 陸軍次官

海軍次官 逓信政務次官 逓信次官 拓務次官

ロ、學識經驗者 (イロハ順)

今井田清徳 小笠原三九郎 大橋八郎 大藏公望 賀屋興宣

梶井 剛 多田滿長 田邊治通 田邊隆二 山崎達之輔

八木秀次 小森七郎 酒井忠正 坂野鐵次郎 樋貝詮三

二、臨時委員

企豐院交通部長 內閣情報部長 外務省東亞局長

大藏省主計局長 陸軍省軍務局長 陸軍省兵務局長

海軍省軍務局長 逓信參與官 逓信省電務局長

逓信省工務局長 逓信省經理局長 拓務省殖産局長

逓信省印



電氣通信委員會幹事名簿案

內閣書記官

海軍省軍務局第一課長

企畫院書記官

海軍省軍務局第二課長

對滿事務局殖產課長

逓信省電務局調查課長

外務省東亞局第一課長

逓信省工務局調查課長

大藏書記官

逓信省經理局主計課長

陸軍省軍務局軍務課長

拓務書記官

陸軍省兵務局防備課長

逓信省 (甲)

電氣通信委員會設置ニ關スル説明書

電氣通信施設ハ國家百般ノ活動上必要不可缺ノ要具ニシテ、一國國運ノ伸長ニハ形影相添フ如ク常ニ電氣通信施設之ニ隨伴シ居レルハ、諸外國ノ歴史ニ徴シ明白ナル事實ナリ

慧眼ナル英國ハ夙ニ電氣通信政策ノ國策的重要性ヲ認識シ、海底ケーブル發明後僅々四十年ニ滿タズシテ早クモ世界主要國ヲ連繫スルケーブル通信網ヲ自國ノ支配下ニ置キ、而シテ其ノ通信政策ノ決定ニハ帝國通信委員會ヲ設置シ、其ノ指導ノ下ニ平戰兩時ヲ通ジ通信ノ機能ヲ十分ニ活用シ、外交ニ、軍事ニ將又通商貿易ニ斷然列國ヲ制壓シテ優位ヲ占メ、遂ニ大英帝國今日ノ隆盛ヲ招來シタリ。米獨佛ノ列強ハ英國ニ後レ電氣通信政策ノ重要性ヲ認識スルニ至リタル爲、既ニ英國ニ主要通信權ヲ獲得セラレ、自國政策ノ遂行ニ多大ノ困難ヲ感ジタルモ、凡ユル努力ヲ傾注シテ英國ニ對抗シ、又無線電氣通信ノ發明ヲ見ルヤ、海底ケーブルヲ獨占支配セル英國ノ支配ヨリ離脱セントシテ、無線政策ニ其ノ主力ヲ注ギタリ。就中、米國ハ其ノ豊富ナル資本ト優秀ナル技術トヲ以テ英國ニ對抗シ、漸次大西洋ニ於

テ英國ノケーブルノ覇權ヲ脅スニ至リタルト共ニ、南北兩米大陸ヲ有機的一體トシテ結合スル鞏固ナル電氣通信網ヲ建設シ、所謂汎米電氣通信プロットヲ結成シ、之ニ依リ汎米政策遂行ニ多大ノ利益ヲ收メタリ。又獨逸ハ世界大戰當時英國ノ通信封鎖ニ苦杯ヲ嘗メタル爲英國通信權ノ羈絆ヲ離脱スル必要ヲ痛感シ、無線ニ依ル通信自主權ノ確立ニ努力スルト共ニ、戰後國力ノ極度ニ疲弊セルニモ拘ラズ、今日ニ至ル迄孜々トシテ内外電氣通信網ヲ整備擴充シ來リタリ。

翻ツテ東亞ニ於ケル電氣通信ノ狀態ヲ觀ルニ、我國ノ電氣通信施設ハ相當ノ發達ヲ見タルモ今尙歐米ノ列強ニ比シ遜色アリ、又滿洲支那ニ於テハ我國ニ比較スルモ其ノ發達ハ著シク遅レ居リ、他方東亞ノ安定勢力トシテ其ノ指導的地位ヲ占ムル我國ハ、其ノ大陸ニ對スル通信政策ニ於テハ、日支兩國ノ關係竝ニ歐米ノ勢力等ニ原因シ、過去ニ於テ未ダ大ナル成果ヲ擧ゲ得ザリシモノナリ。然ルニ滿洲事變起リ滿洲國ノ獨立ニ依リ日滿兩國ノ一體不可分關係設定セラル、ヤ、茲ニ日滿兩國法人トシテ滿洲電信電話株式會社設立セラレ、兩國電氣通信ノ緊密ナル關係ノ設定ヲ見タリ。而シテ支

那ニ於ケル電氣通信ハ多年歐米ノ勢力下ニ在リ、我國トノ關係ハ其ノ圓滑ヲ欠キ、對支政策ノ遂行ニモ多クノ障礙ヲ與ヘ居リタル處、今次聖變ヲ契機トシ我國ノ資本、技術及人ノ援助ノ下ニ蒙疆、華北、華中ノ各地域ニ夫々電氣通信會社ノ設立ヲ見ルニ至リ、日支間ノ電氣通信關係ニ於テモ緊密ナル關聯ヲ設定スルノ情勢トナリタリ。

惟フニ電氣通信ハ其ノ特性トシテ各地域ニ於ケル施設ガ脈絡一貫シタル有機的一體ノ通信網ヲ構成シ、施設相互ノ技術的及經營的聯繫ガ緊密一體タル如ク連營セララルル場合ニ於テ最モ其ノ效用ヲ發揮スルモノニシテ、又斯ル合理的統制下ニ在ル地域ノ擴大ハ益々以テ其ノ機能ヲ高度タラシムルモノナリ。

從ツテ支那地域ニ於ケル電氣通信ノ變革ニ對應シ、我國ヲ中心トシテ鞏固ナル東亞電氣通信ゾウツクヲ形成シ、大陸ニ分立スル電氣通信ノ經營ヲ實質的ニ綜合一元化スルコトハ、電氣通信ノ機能ヲ完全ナラシムル所以ニシテ、又以テ、電氣通信施設ノ國家各般ノ活動ノ基本的施設タルニ鑑ミ、我國ノ大陸ニ對スル諸政策ノ遂行ヲ圓滑ナラシムル要件ナリ。即チ東亞ノ新



事態ニ鑑ミ、又世界列國ノ電氣通信政策ニモ稽へ、我國ニ於テ東亞各地域ヲ一聯トスル通信政策ヲ確立シ、我國ヲシテ東亞ニ於ケル電氣通信ノ中樞タラシムルト共ニ、各地域ニ於ケル施設ノ綜合的發達ヲ期スルノ万策ヲ講ズルコトハ、正ニ刻下ノ急務ナリト謂フベシ。

而シテ東亞電氣通信ニ關シ特ニ急ヲ要スル措置ノ主ナルモノヲ舉グレバ次ノ如シ。

一、東亞各地域ニ於ケル有無線電氣通信事業ノ綜合的一元化ヲ企圖シ日滿支ヲ有機一體トシテ結合スル電氣通信網ノ急速ナル整備ト其ノ合理的運營ヲ實現セシムルコト

二、東亞各地域ニ於ケル對外電氣通信政策ヲ統制シ我國ヲ中心トシテ對外通信連絡ヲ設定シ我が國策ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期スルコト

三、放送無線電話ノ偉大ナル傳播力ト深刻ナル徹底力ニ鑑ミ東亞各地域ニ於ケル放送政策ト我が國策トノ調整ヲ圖リ以テ我が大陸經營ノ指導精神ノ徹底ト日滿支文化ノ完全ナル融合ニ努ムルコト

四、電波傳播ノ特質ニ鑑ミ東亞各地域ニ於ケル電波ヲ一元的ニ統制シ電波

ノ利用ヲ合理的能率的タラシムルコト

五、一般竝ニ専用電氣通信施設ヲ有機一體タラシメ經營ノ合理化經濟化ヲ圖ルト共ニ非常時ニ於テ各種通信施設ノ綜合的動員ヲ可能ナラシムル如ク其ノ態勢ヲ整備シ以テ防空通信網ノ充實、廣播通信機關ノ完璧ヲ期スルト共ニ一般通信施設ノ破壊ニ際シテハ必要ニ應ジ迅速ニ専用其ノ他ノ通信施設ヲ切替代用シ得ル如ク爲スコト

以上ノ如ク現下ノ時局竝ニ今後ノ情勢ニ對應スル爲ニハ、電氣通信ニ關シテモ幾多ノ重要問題アリ。之ガ根本方針ヲ速カニ決定シ其ノ政策ニ滿洲支那ヲシテ順應セシメ、以テ其ノ急速ナル實施ヲ爲スノ要アルノミナラス、其ノ政策ハ大陸ニ對スル我國ノ政治、軍事、經濟其ノ他ノ諸政策ニモ直接關係ヲ有スルモノナルニ鑑ミ、電氣通信委員會ヲ設ケ關係各廳、有學識經驗者等廣ク朝野ノ協力ニ依リ施策ノ適正萬全ヲ期スル要緊切ナルモノアルナリ。

閣甲二三八

昭和十三年九月五日

内閣書記官長



内閣書記官



佐藤



十三年九月十六日



# 内閣總理大臣 友

## 法制局長官

外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



電氣通信委員會官制命ニ依リ 起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

### 勅令案

二十四

法制局



朕電氣通信委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年九月九日

內閣總理大臣

勅令第六百三十一號

電氣通信委員會官制

第一條 電氣通信委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ東亞ニ於ケル電氣通信ノ綜合的發達ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人、副會長一人及委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ遞信大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ

之ヲ命ズ

幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ第一條ノ事項ノ調査ニ従事ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

現下内外ノ情勢ニ鑑ミ我國ヲ中心トスル東亞ニ於ケル電氣通信ノ發達ヲ圖リ以テ我國ノ大陸ニ對スル諸政策ニ適應セシメントス



# 參照

朕科學審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 御名 御璽

昭和十三年四月十四日

内閣總理大臣 公府 近衛 文麿

勅令第二百四十八號(官報 四月十五日)

### 科學審議會官制

第一條 科學審議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ不足資源ノ科學的補填ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

科學審議會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 科學審議會ハ會長一人、副會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ企畫院總裁ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 科學審議會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 科學審議會ニ書記ヲ置ク關係各廳判任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ  
書記ハ會長、副會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

### 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年八月二十三日  
内閣書記官長 風見 章

昭和十三年八月二十三日

内閣書記官長 風見

法制局長官 船田 中殿

依 命 通 牒

今般内閣ニ別紙案ノ趣旨ニ依リ電氣通信委員會ヲ設置致度ニ付勅令  
案起案上申相成度

章



内閣  
出

内閣



電氣通信委員會官制案

第一條 電氣通信委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ東亞ニ於ケル電氣通信ノ綜合的發達ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人、副會長一人及委員~~三十~~<sup>三十</sup>人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ遞任大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ~~補佐~~<sup>輔</sup>シ會長專故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ

命ズ

幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ第一條ノ

事項ノ調査ニ從事ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由

電氣通信委員會官制案理由書案

現下内外ノ情勢ニ鑑ミ我國ヲ中心トシテ東亞ニ於ケル電氣通信ノ綜合的發達ヲ圖リ以テ我國ノ大陸ニ對スル諸政策ニ適應セシメントス

雷氣通信委員會ニ關スル諒解事項

一、本委員會ノ審議ハ對滿竝ニ對支政策ノ遂行ヲ暫付スル虞アル事項ニ  
涉ラザル様其ノ運用ヲ期スルモノトス

二、本委員會ハ現下ノ時局ニ即應スル調査審議ニ一段落ヲ告ゲタルトキ  
之ヲ廢止スルモノトス

上巻ニハワケヌ

附記 本諒解事項ハ湘漢線  
程度ニモナリ  
近頃大目ヨリ説明シタルニ止ル

秘

濟

三十九

閣甲第二五三號

案起

昭和十三年九月三日

閣議決定

昭和十三年九月三日

施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣 友

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

遞信大臣

五

厚生大臣

五

內務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙國家總動員業務委員會設置件

印

印

右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十三年九月二十三日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十三年九月二十二日企畫院上申第六  
九號國家總動員業務委員會設置、件  
上申ノ通閣議決定相成候



企畫院上申第六九號

昭和十三年九月二十二日

企畫院總裁 瀧

正

內閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

國家總動員業務委員會規程ニ關スル件

標記ノ件別紙ノ通閣議決定相成様致度此段及上申候

閣甲 二五三

內閣



國家總動員業務委員會規程

- 第一條 國家總動員業務委員會（以下單ニ業務委員會ト稱ス）ハ  
內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ各廳總動員業務ヲ調整統一シ其ノ適  
正圓滑ナル遂行ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 業務委員會ハ國家總動員上必要ナル事項毎ニ企畫院總裁  
之ヲ設置ス
- 第三條 業務委員會ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第四條 委員長ハ企畫院次長又ハ企畫院部長ヲ以テ之ニ充ツ  
委員ハ企畫院及關係各廳高等官ノ中ヨリ企畫院總裁之ヲ指命又  
ハ委囑ス
- 第五條 業務委員會ニ幹事ヲ置ク幹事ハ企畫院及關係各廳高等官  
ノ中ヨリ企畫院總裁之ヲ指命又ハ委囑ス
- 第六條 本規程ニ定ムルモノノ外業務委員會ニ關シ必要ナル事項  
ハ企畫院總裁之ヲ定ム



國家總動員業務委員會設置ノ件

- 一 國家總動員ニ關スル各總業務ノ調整統一ヲ圖リ其ノ適正圓滑ナル遂行ヲ期スル爲企畫院ニ國家總動員業務委員會ヲ設置ス
- 二 差シ當リ設置スル總動員業務委員會ノ名稱竝ニ業務ノ範圍左ノ如シ

總動員業務委員會ノ名稱

- 總動員計畫委員會
- 總動員法制委員會
- 物資動員委員會
- 勞務動員委員會
- 交通電力動員委員會
- 貿易統制委員會

業務ノ範圍

- 總動員計畫ニ關スル事項及他ノ委員會ニ關セザル總動員ニ關スル事項
- 國家總動員法令ニ關スル事項
- 物資ノ動員ニ關スル事項
- 勞務ノ動員ニ關スル事項
- 交通電力ノ動員ニ關スル事項
- 貿易統制ニ關スル事項

參考

資金統制委員會

資金統制ニ關スル事項

- 三 各業務委員會ニ於テ協議シタル事項中重要ナルモノニ付テハ關係企業院參與ノ會議ニ諮ルモノトス
- 四 現ニ企業院ニ存スル委員會若ハ協議會ハ其ノ業務ノ性質ニ從ヒ第二項ニ掲グル委員會ト爲ルモノトス
- 五 各業務委員會ノ構成ハ左記ニ依ルモノトス

(一) 總動員兼計畫委員會及總動員法制委員會ノ組織ハ左記ニ依ル

委員會ノ名稱	委員長	委員	幹事
總動員兼計畫委員會	企業院次長	關係各廳參與及企業院部長、勅任調査官	關係各廳企業院事務官及企業院高等官
總動員法制委員會	同	同	同

(二) 物資動員委員會ノ組織ハ左記ニ依ル